



山根貞男のお楽しみゼミナール

「鴨門秘帖」の原作は一九二六年から二七年にかけて大阪「毎日新聞」に連載され、これによって吉川英治は流行作家の座を決定した。

波瀾万丈の面白さゆえ、何度も映画化された。もともと早いのは原作小説が連載中の映画化で、それも三社の競作になった。おまけに各社そろって全七部作というのがスゴイ。日活の谷路十郎主演版、マキノ映画の市川右太衛門・嵐寛寿郎一版（途中で市川右太衛門が退社したので後半は嵐寛寿郎・東千代之子の光岡龍三郎版で、いずれも一九二六年・二七年、全七部作としてつくられた。

とにかく原作は大長篇ゆえ、七本になるのも納得できる。

一九五七年の長谷川一夫版「鴨門秘帖」は一本きりだから、大躍に省略されたダイジェスト版といえ、ドラマがじつに目まぐるしく展開してゆく。こゝとに巻頭など、まるで見せ場の名場面集のようになっており、どんな話も場所も飛ぶ。

それでも迷走することなく、複雑なストーリーが的確に運ばれるのは、衣裳・助監督たちスタッフの手腕である。いわば盛衰に見せることが魅せることにつながり、そのなかに、長谷川一夫をはじめとする豪華な顔ぶれの

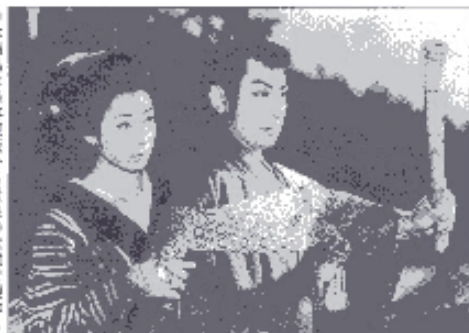
魅力が浮き立つ。

長谷川一夫が相変らず颯爽としているのはさすがだとして、市川雷蔵が小気味よくライバル役を演じている。楽しみながら先輩の大スター・長谷川一夫に挑むといったところか。

……千変万化の面白さ、空前絶後の融合、大映の総力を結集して、年に一度の黄金時代劇！

幕引の場で、ちよつぷり言葉がオーバーだが、盛には堪えない。

この「鴨門秘帖」の監督・衣笠貞之助、撮影・杉山公平、美術・西岡善信、照明・岡本健一というスタッフは、前年の痛快作「月形半平太」と同じである。そこそが全盛期の大映の實力にほかならず、年に一度の黄金時代劇を生み出している。



■キャスト

長谷川一夫 市川右太衛門
嵐寛寿郎 市川雷蔵
山本嘉次郎 山本嘉次郎
多田千鶴 多田千鶴
秋 成田
内藤 内藤
阿部 阿部
南 南
中村 中村
清水 清水
松本 松本
伊三 伊三
大角 大角
伊沢 伊沢
石川 石川
山本 山本
三 三
沢村 沢村
T.N.O. T.N.O.
明 明
田 田
川 川

■スタッフ

原作 吉川英治
製作 永田雅一
企画 真田喜久雄
脚本 衣笠貞之助
監督 衣笠貞之助
撮影 杉山公平
助監督 大西正夫
音楽 関本健一
美術 西岡善信
衣裳 関本健一
編集 西岡善信
録音 花井つづ
監理 関本健一
T.N.O. T.N.O.
明 明
田 田
川 川

◎本作品は保存標本から最良の状態で作成しておりますが、映画公開時より長い年月を経たため、一部作品にはお見苦しい場面もございます。あらかじめご了承ください。